

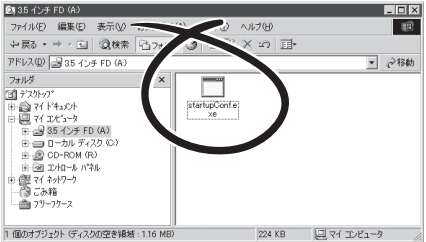
6 インストール/初期導入設定用ディスクを作成する

本装置を、Mail、Webサーバーとして運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindows XP、またはWindows 2000が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章「インストール/初期導入設定用ディスクの作成」を参照してください。

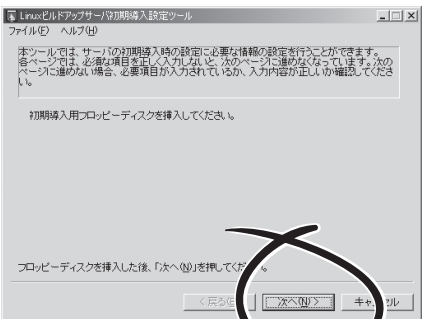
- 1 Windowsマシンを起動する。
- 2 フロッピーディスクドライブに添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をセットする。

インストール/初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。
- 3 エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール (StartupConf.exe)」を起動する。

初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。



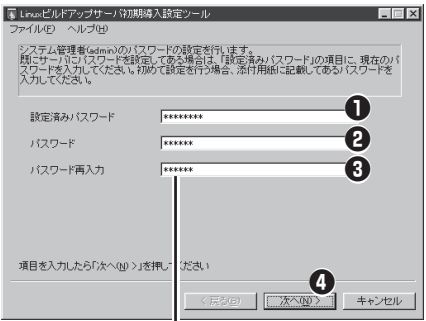
- 4 [次へ]をクリックする。



- 5 管理PCから本装置にログインする際の管理者 (admin) パスワードを設定する。

ここで入力したパスワードは、管理者 (admin) でログインする場合に必要となります。パスワードを忘れたり、不正に利用されたりしないように、パスワードの管理は厳重に行ってください。

- 1 本装置に添付の「rootパスワード」に記載されたパスワードを入力する。
- 2 パスワードを入力する。
- 3 2で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。
- 4 [次へ]をクリックして次に進む。

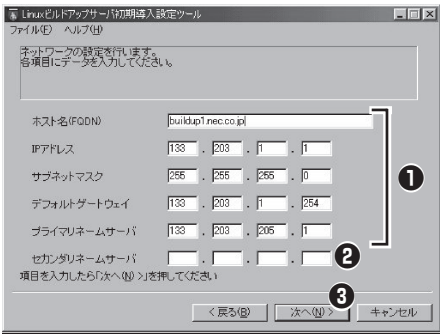


パスワードは画面に表示されない(「*」で表示される)ため、タイプミスのないように注意する

- 6 ネットワークの設定をする。

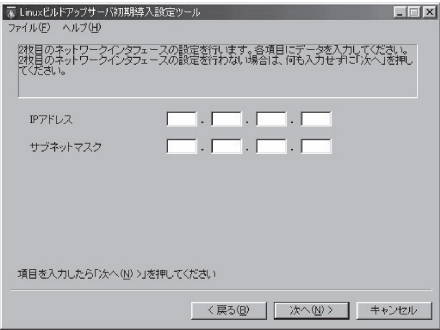
ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。

- 1 タイプミスのないように各値を入力する。
- 2 セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。
- 3 [次へ]をクリックして次に進む。

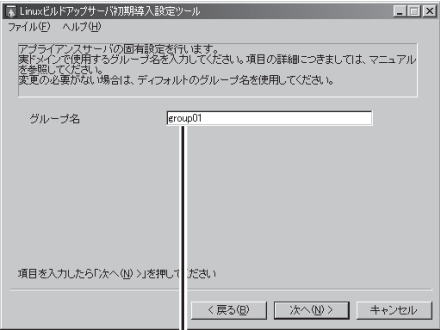


- 7 ネットワークの設定をして[次へ]をクリックする。

ここで設定する情報はLANポート2(システムからはeth1ポートとして扱われます)に対するものです。フェイルオーバークラスタ構成で運用する場合のみ設定します。



- 8 実ドメインのグループを設定し、[次へ]をクリックして次に進む。



1文字目は英数字、2文字目以降は英数字とハイフンからなる最大15文字の全小文字

<指定できない文字列>

adm、admin、apache、bin、canna、daemon、dip、disk、floppy、fml、ftp、games、gopher、kmem、ldap、lock、lp、mail、mailnull、man、mem、named、news、nfsnobody、nobody、nscd、ntp、pcap、root、rpc、rpcuser、rpm、slocate、smb、smbguest、smmisp、sshd、sys、tty、users、utmp、uucp、vcsa、wbmc、webalizer、wheel、wnn、xfs

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

- 1 本装置のLANポート1コネクタ(eth0)とLANポート2コネクタ(eth1)がLANケーブルによりネットワーク環境として使用するHUBに接続されていることを確認する。

- 2 ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。

- 3 本体の電源をONにする。

セットアップを開始します。5～6分ほどで完了します。

セットアップに失敗した場合は、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。

- 4 フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

- 5 Windowsの「メモ帳」などを使って、インストール/初期導入設定用ディスク内のログファイル(logging.txt)を開く。

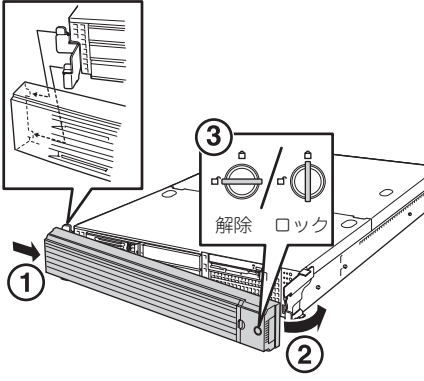
ログファイルに「Info: completed.」と出力されていたらセットアップは正常に完了しています。

それ以外の出力(ログ)がある場合は、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」または7章を参照してトラブルの解決を試みてください。それでも解決できない場合は保守サービス会社にお問い合わせください。

- 6 添付のフロントベゼルを取り付けてセキュリティキーでロックする。

セキュリティキーは大切に保管してください。

ツメをフレームに引っかける



8 システムにログインし、各種設定をする

クライアントPCのWebブラウザからネットワークを介してシステムにログインします。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

- 1 クライアントPC上でWebブラウザを起動する。
- 2 Webブラウザの設定を確認する。
 - プロキシを経由させない
 - キャッシュ機能を使用しない
- 3 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
- 4 [システム管理者ログイン]をクリックする。
- 5 ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

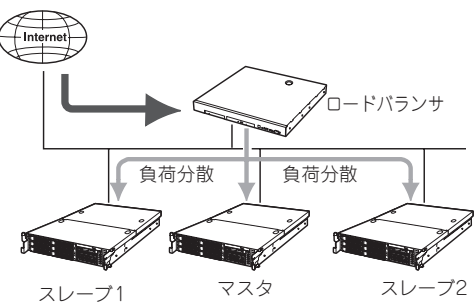
管理者用のトップページが表示されます。



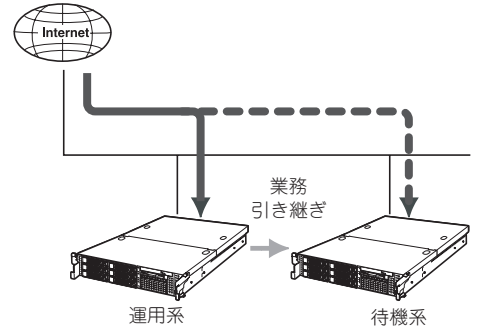
Webブラウザに表示された画面からさまざまなシステム設定ができます。

詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

ロードバランスクラスタ構成



フェイルオーバークラスタ構成



9 ESMPro/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPro/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップCD-ROMにあるESMPro/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップCD-ROM>:/nec/doc/esmpro.sa/users_v42.pdf (SATA HDD単体接続以外用)

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

10 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」に含まれています。管理コンピュータのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの5章を参照してください。

【セキュリティパッチの適用について】

http://www.express.nec.co.jp/care/index.htmlに最新のセキュリティパッチがあります。定期的に参照し、適用してください。

以上で完了です。